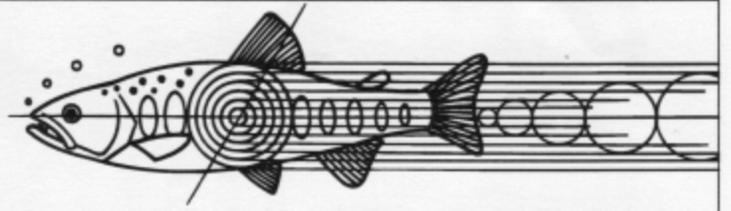


news

長良川市民学習会ニュース



長良川河口堰の開門調査を実現しよう。

No.14

2012年9月1日

表紙・目次(写真は長良橋畔での水遊び)……P.1

巻頭あいさつ、情勢・活動報告……P.2～5

河口堰を開門し長良川を回復する道程…P.6～7

河口堰常時開門へ寄せる恋心♡……P.8～9

「韓国4大河川事業視察と交流の旅」報告…P.10～11

校歌に歌われた長良川・事務局より……P.12

長良川を放射能で汚してはならない！私たちは、原発の再稼働に反対します。

山は動いたのか

長良川市民学習会 代表 粕谷志郎

最近の政治状況を見ていると「コンクリートから人へ」はどこかへすっ飛んでしまったようです。いつか見せつけられてきた、妙な安定感を感じるのは私だけでしょうか。派閥が談合して物事を決めてゆく。大臣は官僚の言った通りに動く。アメリカには逆らわない。近隣諸国とは、とりあえずいざこざを避ける。消費増税、オスプレーの配備、竹島問題、尖閣問題、原発依存問題、あの日、あの時のようなやり方で「解決」されてゆくのでしょうか。

時々の民意（政治状況）に左右されない行政の一貫性こそが民主主義体制の根幹であるという主張も聞きます。確かに、ファシズムなどに抗する体制というのは重要だと思います。明治以降、揺るぎない体制が出来上がっているようです。どんな嵐になろうと、たとえ山体崩壊しようとして揺るがない地殻のようなものです。長良川河口堰、徳山ダム、木曾川水系連絡導水路、みんな地殻とつながっています。山が動いても、ビクともしないというのも妙な納得です。

私達は、地殻を動かしてゆかなければなりません。妙案、妙技があるわけではありません。長い自然界の時の流れの中では、海底がヒマラヤ山脈に盛り上がる事もありました。現に、世紀のレベルでながめると、私達の社会も幾つかの地殻変動を経験してきています。政権交代をはるかに凌ぐパワーを蓄えてこそ、可能となってくる変化であることだけは確かです。

長良川をめぐる情勢と活動報告

長良川市民学習会 事務局長 武藤 仁

長良川河口堰の検証が進んでいます。昨年2月の知事・市長ダブル選挙で掲げた大村・河村共同マニフェスト「河口堰の開門調査」に基づき、大村知事は同年6月「長良川河口堰検証プロジェクトチーム（PT）」を発足させました。このPTの下に専門委員会が設置され、同委員会は11月7日「5年以上の開門調査」を提言する報告書を発表しました。

年が明けた本年1月17日、PTは①合同会議の設置②関係者の理解・合意と愛知県の率先的行動の二つを提言し報告書をまとめました。堰の運用の検討をめぐっては「堰上流に塩水を遡上させるかどうか」が最大の論点です。①は「遡上させない」ことを前提にした国がこれまで設置してきた検討会と「遡上させる」ことを検討した愛知県PTの「合同会議」を設置し、最適な運用を追求しようというものです。②は、知多地域の河口堰を前提としない水源への切り替えなど6項目からなる愛知県が率先して行うことの提言です。

PTの報告書を受けて大村知事は、国に対し合同会議設置に向けた要請を行うとともに「河口堰検証」に対する抵抗が大きい県庁内体制の対策に動きまわりました。

「最適運用検討委員会」設置と「合同会議」に向けた動き

新しい年度を迎え愛知県は地域振興部長、土地水資源課長など大幅な人事異動を発表し「率先的行動」に対応できる体制づくりを目指しました。

6月14日PT提言に基づき愛知県は「長良川河口堰最適運用検討委員会」をスタートさせました。この委員会は検証PT座長を務めた小島敏郎氏を委員長に県から委嘱を受けた10名の委員で構成されています。委員は利水（リーダー伊藤達也）、塩害（同今本博健）、環境（同村上哲生）の3チームに分かれて専門的な検討と庁内検討チーム（土地水資源、農地計画、水道計画）との意見交換を行います。第2回委員会は8月3日に開催され、愛知県の脱「長良川河口堰」の検討が本格化します。

私たちは、マニフェストを貫き「ぶれない」こうした大村知事の姿勢を支持する「はがきキャンペーン」を環境活動に熱心なパタゴニア日本支社と共同で始めました。全国の皆様のご協力をお願いいたします。

国との「合同会議」設置の動きも始まっています。大村知事の要請と「開門調査」を求める世論に押され、国は愛知県が主催する「長良川河口堰合同会議準備会」に協力することになりました。この準備会は稲垣隆司前愛知県副知事を座長に愛知県PT委員2名（小島、蔵治）と国、水機構が設置する「長良川河口堰の更なる弾力的な運用に関するモニタリング部会」委員2名（松尾直規、関口秀夫）の5名で構成されています。7月24日の第1回会議は「準備会自体が何をするのか」で右往左往する議論の状況で終わりましたが、「公開」「傍聴者の発言時間」も保障され「河口堰開門」に向けた確実な一歩といえます。

清流国体を機に「開門調査」の実現を！

長良川は岐阜県を貫いて流れます。岐阜県民は河口堰問題に強い関心を持ち「開門」を望んでいます。しかし、下流の海津市が開門に伴う塩水遡上による「農業への塩害」を理由に強硬に反対しているため知事と県議会は開門の声に背を向けています。私たちは、そうした危惧を払しょくするためにも今「開門調査」が必要であると訴えています。4月1日PT委員を務められた蔵治光一郎先生と岐阜大学の向井貴彦先生を講師に招いて岐阜市に

大村愛知県知事の
「長良川河口堰の開門調査」実施を応援する
はがきを書きましょう

- はがきの入手
【販売ストア】 パタゴニア名古屋、パタゴニア東京・渋谷、パタゴニア鎌倉、パタゴニア大阪
【データ】 長良川市長学協会ウェブサイト (<http://deusu.org>) からダウンロード
- はがきの記入
はがき裏面にご自身のお名前と住所を記入してください
- はがきの投函
【パタゴニア店舗へのご持参】 送料手代(50円)はパタゴニアで負担いたします
【郵便ポストでの投函】 送料手代(50円)をご負担ください

大村 秀章 様
〒460-0002 愛知県名古屋市中区丸の内3-20-17 中野東成東上ビル
TEL.052-950-7721

【共同実施】 パタゴニア日本支社、長良川市長学協会
【問い合わせ先】 パタゴニア名古屋
〒460-0002 愛知県名古屋市中区丸の内3-20-17 中野東成東上ビル
TEL.052-950-7721

において開催した市民学習会「長良川河口堰の『開門調査』実現をめざして」には約 100 名の市民が参加しました。



約100人が参加した市民学習会

2012.4.2 毎日新聞

この秋、岐阜県で「清流」を冠にして国体が開催されます。5月15日私たちは14名の要請団で知事に「清流国体を機として『岐阜県の宝・長良川』の清流回復に向けた要請」と長良川河口堰調査検討会議長に「清流国体を機とした長良川河口堰『開門調査』実施にかかる要請」を行いました。また、7月1日朝日新聞朝刊（岐阜県域）に全面カラーの意見広告を出し、「河口堰の開門調査実現！」を県民にアピールしました。



7月1日（日）朝日新聞「意見広告」

2 河川水温差6度
 徳山ダム（揖斐川町）
 長良川市民生態系にダメージ
 代表は「導水路が完成の水を長良川などの下流域に送る導水路計画に絡み、現在ダムの水を流している揖斐川と、流していない長良川の水温が最大6度以上違うことが、『長良川市民学習会の調査で分かった。粕谷志郎（揖斐川町）原」と、長良川（岐阜市長良古津）の水温や有機物量などを33回調査した。32回は揖斐川に比べ長良川の水温の方が高く、うち23回は2〜6・75度も違った。同会によると、水温が2度以上違う層が定期的に循環しないため、酸素不足となった川底にヘドロが付着し、産卵などの生態系が変わってしまう恐れがある。開門調査については、愛知県と国が設置する予定の合同会議に岐阜県も参加する意思を表明することなどを求めている。【三上剛輝】

長良川に徳山ダムの水はいらない

5月15日に行った岐阜県要請では「導水路の速やかな中止！」も訴えました。木曾川水系連絡導水路事業は「凍結」となり世間の話題からも消え去ろうとしています。しかし、事業は生きています。民主党政権の下で2011年度3億5千万円、12年度2億9千万円の予算が組まれ国民・県民の血税が導水路に流れ続けています。全国的には福井県の足羽川ダムのように凍結のダムが「事業者の検証」「有識者会議の追認」を経て工事の本格的な「再稼働」が始まっています。速やかに事業を中止させなければなりません。

私たち市民学習会は長良川に「冷たくて濁ったダムの水」が放水されたら大変なことになると考え、毎月水温とCODの測定をしています。採水地点は徳山ダムの水が入ってくる導水路計画取水地点（揖斐川・西平ダム湖）と計画放水

2012.5.16 毎日新聞

地点（長良川・長良古津）で、同時に採水して比較します。2009年1月以来続けていますが、長良川の水温が低かったのは1度だけ、いつも揖斐川の水温が低い。重大なことはアユなどの成長にとって一番大事な時期の4月から6月にかけて温度差が大きいということです。7℃ほど違う月もありました。低温はアユなどの魚や底生生物にとっては致命的です。「環境改善」と称して湧水時、長良川流量が少なくなったときに徳山ダムの水を流すのがこの導水路事業の目的です。恐ろしいことです。5月15日の岐阜県要請の後に行った記者会見で、私たちはこの「冷たい水問題」を強くアピールしました。

徳山ダムと水力発電

原発事故発生以来、「徳山ダムの水を発電に」という声が聞かれます。問題はないのでしょうか？

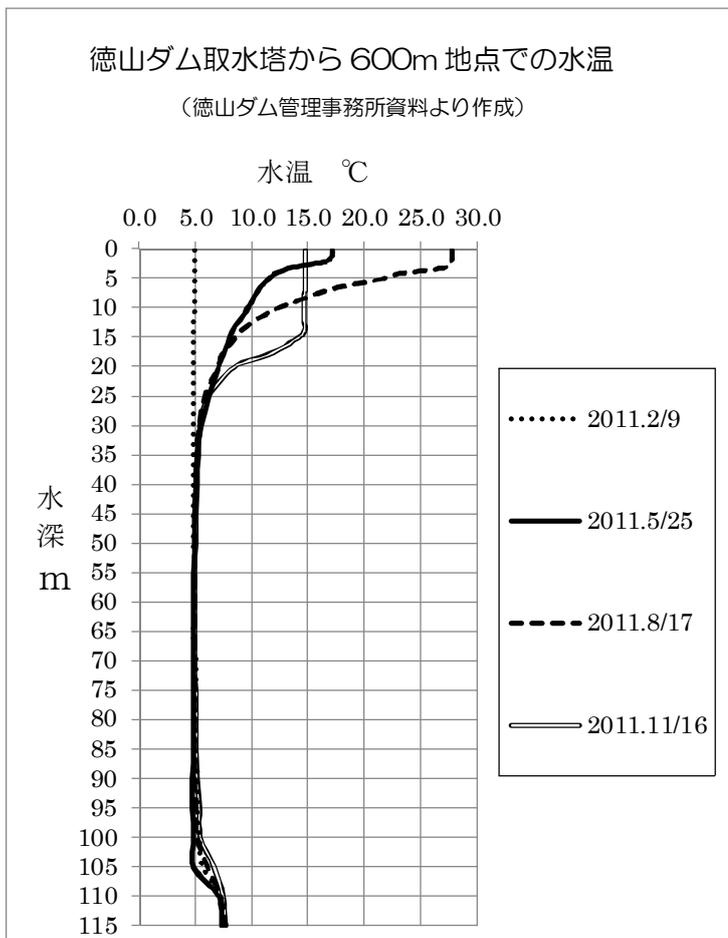
現在工事中の徳山発電所は2014年運転開始の予定です。最大出力15.3万kwで最大使用時水量は毎秒100m³ですから運用されたときの放流水の水温が心配です。水力発電が効果を発揮するのは電力需要ピーク時です。ピーク時は真夏にやってきます。川の水が温かいそんな時期に冷たい水が大量に放水されれば河川の生態系に大きな影響を与えることは間違いありません。

徳山ダム管理事務所から水温データを取り寄せて右のようなグラフを作ってみました。春から夏にかけては水深2・3mあたりから急激に下がり、水深30m以下になると5℃で一定になります。

毎秒100m³もの水量が日中放流されれば水位は数m下がります。選択取水での調整も難しいと思われます（発電がない現在は水深8mからの取水を標準に運用しているそうです）。

長良川には導水路の水は湧水時にだけ流されます。夏の湧水時、長良川の水温は上がっています。ところが徳山ダムは冷たい水しか放水できません。放水された長良川はどうなるのでしょうか……………

大ダム発電は決して環境に優しいものではありません！



河口堰を開門し長良川を回復する道程

—河口堰最適運用検討委員会と合同会議準備会始まる—

在間正史（弁護士・元長良川河口堰建設差止訴訟・徳山ダム訴訟弁護団）

河口堰最適運用検討委員会と合同会議

愛知県の長良川河口堰検証プロジェクトチーム(P T)報告書は、堰上流に塩水を遡上させることを含む河口堰の「最適な運用」を探るために開門調査を提案し、国土交通省中部地方整備局・水機資源構の河口堰の「更なる弾力的運用」モニタリング委員会等との合同会議と愛知県の率先的行動の実施を提言しました（本誌No.13 参照）。河口堰の「最適な運用」とは堰上流に塩水を遡上させる全面的開門を含むものであるのに対し、「更なる弾力的運用」とは全面的開門はなく堰上流には塩水を遡上させないものであり、両者には決定的な違いがあります。両者の科学的根拠を議論する合同会議が必要なのはそのためです。

「最適運用検討委員会」の検討事項

愛知県に河口堰最適運用検討委員会と合同会議準備会（中部地整の協力あり）が設けられ、8月3日に河口堰最適運用検討委員会の第2回委員会が開かれ、環境、利水、塩害に関する愛知県専門委員会報告書と中部地整・水機構の相違点を整理し、第2回合同会議準備会に向けた作業のための検討事項が話し合われました。

そこでは、①利水では、2004年フルプランの精査、次期フルプランを見通した需要予測、知多半島の水源転換の可能性、異常渇水対策、農業用水の取水・利用実態、福原用水等について具体的に検討すること、②塩害では、15km付近の河床突起部（マウンド）が塩水の遡上を止めてきたが、浚渫によって除去されるので塩水がさらに上流（最大30km付近）まで遡上し塩害が拡大するので潮止めのために堰を建設すると説明されてきたが、河床は固定しておらず、15km付近では平均河床高よりも深いところがあり、マウンドには塩水を止める作用はなく、塩水の遡上限界とマウンド位置がたまたま一致したと考えるのが自然、予測は数値シミュレーションで実測値で検証されたものはなく、開門すればどこまで塩水が遡上するかよくわかっていないこと、③環境では、開門に際して懸念される環境影響（堰

2012.6.15 中日新聞

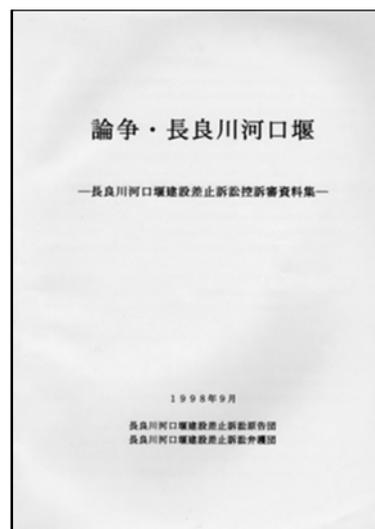
長良川河口堰	開門への課題研究へ
県の長良川河口堰最適運用検討委員会が十日、県庁で初会合を開いた。河口堰の開門に向け、課題に挙がっている塩害の防止策研究や、水利用の実態把握を進めることを決めた。	識経験者や長良川の漁師大橋亮一さんら十人がメンバー。利水、塩害、環境の三チームを設け、県庁内の七部局でつくる検討チームと協力して、開門実現のための課題解決に取り組む。
検討委は、県の政策顧問の小島敏郎青山学院大教授が座長で、学	出席者は行政が水需の過大予測を続け、河口堰の必要性を主張してきたとして、「水資源ムラの人は誤りを見直さない」「かたくなな姿勢を変えないと、開門を求める知事の思いと食い違つ」と国や県の対応を批判した。
から水道水を取水する	県は今後、国土交通省中部地方整備局と河口堰に関する合同会議を設置し、開門調査に慎重な国や岐阜、三重両県などと協議を進める。
	大村秀章知事と名古屋市の河村たかし市長は昨年二月の知事・市長選で、公約に開門調査を掲げていた。

上流の塩分成層の強化と貧酸素化、堆積物の流出等)等について検討すること、そして、中部地整・水機構は河口堰運用前は環境悪化を想定していなかった(建設省『長良川河口堰への質問へのお答え』1992』)のであり、「環境悪化は想定内」と主張して協議に応じない姿勢であれば、環境についても堰建設の正当性(堰建設による環境悪化)を徹底的に検証することが必要になること、以上のチーム報告がなされました。

河口堰の検証、開門調査そして開門・長良川の回復

筆者は1978年以来、長良川河口堰建設差止訴訟と徳山ダム訴訟において、水は余っており新規利水のために河口堰も徳山ダムも必要がないこと、長良川は7,500m³/sを流せる河道流下能力はあり大規模浚渫は必要がなく、また塩害は発生する可能性はないこと、河口堰建設により長良川が環境が悪化すること、これらを証拠と事実によって明らかにしてきました。しかし、判決では、これらについては多くは沈黙して判断すら示されず、闇に葬られてしまい、1995年に河口堰の運用が始まって長良川は大きく変わってしまいました。

しかし、昨年の検証専門委員会において、上記問題が初めて公に分かる形で議論され、筆者は毎回委員会を傍聴し傍聴者意見を述べて議論に参加しました。そして、筆者が問題としてきたことは専門員会報告書においても述べられ確認されました。これから行われる最適運用検討委員会と合同会議、さらに「開門調査」は、これまでの問題点をきちんと科学的に議論した検証するもので、河口堰を開門し長良川を回復する道程です。是非、多くの傍聴参加により(意見も言えます)、開門調査、さらには開門を実現したいものです。



長良川河口堰建設差止請求
訴訟控訴審資料集(1998年9月)

* 長良川河口堰の検証ではこれまでの「裁判の論争」が大きく役立っています。在間弁護士が長良川河口堰、長良川水害、徳山ダム関係でかわられた裁判は、以下のとおりです。

1977年6月～1994年10月	安八水害訴訟
1978年12月～1982年8月	長良川河口堰岐阜県知事同意無効確認請求行政訴訟
1982年4月～1998年12月	長良川河口堰建設差止請求訴訟
1998年2月～2003年3月	長良川河口堰公金差止及び損害賠償請求住民訴訟(愛知県)
1999年2月～2007年3月	長良川河口堰公金差止及び損害賠償請求住民訴訟(三重県)
1999年3月～2007年2月	徳山ダム行政訴訟(事業認定取消請求・収用裁決取消請求)
1999年3月～2007年11月	徳山ダム公金支出差止住民訴訟(岐阜県)
2010年5月～	木曾川水系連絡導水路事業公金差止請求住民訴訟(愛知県)

河口堰常時開門へ寄せる恋心♡ー伊勢湾再生に向けてー

元貝問屋三代目 山本茂雄（アジアの浅瀬と干潟を守る会）

原稿の依頼を二つ返事で引き受けてからバックナンバーをチラ見して、そのアカデミックな内容にびっくり。わたしは、三重県桑名に採貝漁業を伝えた豊橋で、戦前から貝屋を営んでいた野暮な貝屋の三代目。そのため学術的な反論や、関係当局の主張の論破は残念ながら出来ません。難しいことは学者の皆様にお任せして、より下世話な一般消費者に近い目線で、長良川河口堰の”常時開門”に寄せる恋心を、告白したいと思います。

そして、ゲートは今までも時々こっそり開けられていたので、表題にあえて「常時」と加筆しました。これからは堂々と開けっ放しにすることで、長良川はもとより伊勢湾にも良いことが起こるのではないかと商売人の勘と欲が騒いでいます。

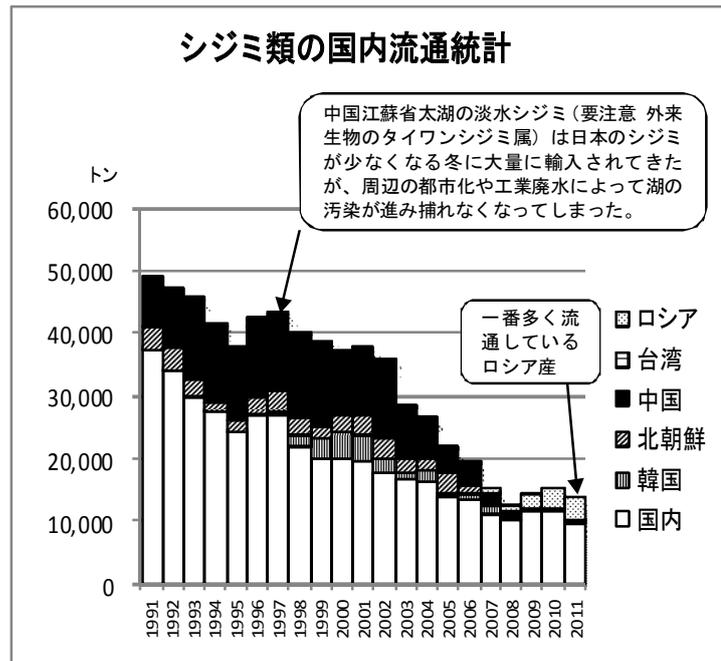
【大胆予想 蘇る伊勢湾の天然食材】

1. 品質向上間違いなし、知多半島の養殖ノリ

河川からの真水の量に最も品質を左右されるのが、養殖黒ノリ(荒び海苔:Porphyra yezoensis)でしょう。愛知県では伊勢湾に面した知多半島全域、三重県では松阪市以北で広く栽培養殖されています。わたしは真っ先に黒ノリの品質向上による経済効果を予想しています。特に黒ノリ養殖が盛んな愛知県常滑市、南知多町の事業者さんたちからは、開門を心底喜んでもらえるのではないかと考えています。

2. 後継者が育つ赤須賀漁協のヤマトシジミ(Corbicula japonica)

国内外の産地で資源が激減[棒グラフ参照]する中、特に味の良い長良川のべっこうしじみが捕れるようになれば、海の百姓の採貝漁業は長期安定的に収入増になります。意欲的な後継者が育つことは、金銭に替えがたい国家的利益です。一昨年まで全国一位のヤマトシジミの漁獲高を誇っていた宍道湖も、2011年には2,358トンにまで落ち込み、今や日本で一番多く流通しているのは樺太・アムール川河口で捕れるロシア産のヤマトシジミなのです。



「農林水産統計」及び「財務省輸入統計」のデータより作成

1971年に利根川河口堰ができるまでは、シジミは無主物、川原の石ころと同じ扱いでした。その後各地で競うようにダムや堰が建設され、瞬間にシジミの棲家が無くなるのと反比例して、取引価格は上昇し、おまけにオルニチンという優れた栄養成分が注目され、人気は高まるばかりです。

昨年起きた原発事故は、茨城県のシジミ漁師さんたちの地道な資源回復の努力を無かったことにしてしまいました。青森県も、ヤマトシジミの大産地小川原湖の横には、六ヶ所村(核廃棄物再処理施設)があり、本格的な操業となれば影響は免れないでしょう。

海外の産地でも、同様の開発がよりダイナミックに行われています。現在国内流通量トップのロシア産ヤマトシジミは、現地では食習慣がないものの、寒冷地のために、関東以南のものと比較すると、同じ大きさに成長するのに3倍から5倍の期間を要します。今のペースで輸入を続けると、早晚資源の枯渇を招いてしまうことは明らかです。

3. アサリの資源回復は伊勢湾の貧酸素水塊を小さくする

次はアサリでしょうか。河口堰運用時1995年の三重県のアサリ漁獲高は、8,909トンほどありましたが、2010年にはセントレアの影響も加わっているのか、1,267トンにまで落ち込んでしまいました。愛知県の伊勢湾沿岸部も、稚貝を三河湾内の六条潟に100%依存しなければならぬほど漁場は劣化してしまいました。河口堰開門によって、砂と真水が供給されるようになれば、知多半島のアサリ稚貝の発生水域が再生される可能性が考えられます。

なにより、伊勢湾のアサリ浮遊幼生が循環する海の回廊が復活できれば、漁獲高1万トンも夢ではないでしょう。夏には伊勢湾の底に重く横たわる貧酸素水塊を、より小さくする効果が期待できます。

お隣の三河湾のように、アサリが増えることで、カニ・エビなどの甲殻類も回復するでしょうし、面積444haの木曾岬干拓地をもう一度浅い海に戻すことができれば、愛知県ではジャイアントパンダと同等の絶滅危惧IA類にカテゴライズされている木曾三川河口のハマグリ(*Meretrix lusoria*)も、3千トンくらいまで回復させることができるでしょう。

4. 長良川河口堰常時開門で開かれる日本の未来

庶民の食卓から消えて絶滅危惧種にまでなった食材が、食卓にカムバックすることで、川や海は本来の機能と美しさを取り戻すことができます。公共事業と呼ばれ、多額の税金を投じて行われた自然破壊。漁業補償では償えなかった、天然食材ハマグリ、アサリ、シジミの代用品探しの旅も、近隣アジア産地の自然破壊であっけなく幕引きです。

海に囲まれた島国日本自らが、川や海の天然食材と共存共栄できる新たな文明社会のお手本となる時が、いよいよ来たのです。長良川河口堰のゲートは、自然に抗わない日本本来の文明の扉でもあるとわたしは思っています。

*** 9月29日(日)なごや環境大学「よみがえれ長良川！」で山本さんの講演があります。是非ご参加を！**

「韓国 4 大河川事業視察と交流」報告

6月15日～18日「よみがえれ長良川！よみがえれ伊勢湾」実行委員会が主催しました「韓国 4 大河川事業視察と交流の旅」の概要を報告します。

詳しくは http://dousui.org/dataroom/pdf/20120615-18_Kankokushisatsu_houkoku.pdf をご覧ください。

大沼淳一代表以下14名の視察・交流団で、「脱ダムネット関西」のメンバーも参加されました。この企画は、2年前COP10会場で4大河川事業による環境破壊とたたかう韓国の市民団体と交流したのがきっかけで組まれたものです。

現地視察は日韓環境情報センター(<http://jk-eco.jimdo.com/>)の田中博さんの案内で行われました。現場の案内では各地で多くの環境団体の皆様にお世話になりました。交流も深めることができました。

韓国 4 大河川事業とは李明博政権の下で進められる大規模なプロジェクトです。4大河川（ハン川、ナクトン川、ヨンサン川、クン川）の「グリーンニューディール」事業という名で進められました。総事業費 22.2 兆ウォン（約 2 兆円）で 2009 年 11 月に建設開始。環境アセスメントはほんの数か月で終了されました。私たちは「大胆不敵」に工事が進められた河川事業にとっても驚きました。

以下、時系列的に紹介します。

< 6月15日 >

インチョン空港に到着後、インチョン・ソンド埋立地でクロツラヘラサギの繁殖地を訪れ現地の環境団体に案内していただきました。次に南北ハンガンの合流点にあるトゥムルモリを訪れ、河川事業の強制立ち退きとたたかい有機農業を営む農民の話を行いました。カトリック教、生協などと協力し力強い抵抗運動している姿に感動しました。

< 6月16日 >

南ハンガン、ヨジュへ到着。ここでは長良川河口堰をバージョンアップさせたようなイポダムとヨジュダムを見学しました。河川事業による大規模な浚渫で支流では河床が洗われ流され橋や護岸に大きな被害が出ていました。また、浚渫残土は 10m ぐらいの高さで山のように置き去りになっていました。

< 6月17日 >

分水嶺を越えてナクトンガンを視察。中流域大邱近郊の河川事業による農業被害を見学



トゥムルモリで記念写真

しました。河川敷にあった豊かな農地は潰され雑草の原っぱとなっていました。堤内地の農地ではハプチョンダム建設により水位が上がり水びだしとなり農作物に大きな影響を与えている状況を見ました。

<6月18日>

ゼネコン大統領李明博の名を上げた清溪川を見学。確かに魅力ある水辺空間づくり！との感想を持ちました。最後にインチョンとハンガンを結ぶキョンイン運河の見学。2.25兆ウォンかけた大事業。今年5月に完成。しかし未だ1隻の貨物船も通っていない超無駄な運河。立派なコンテナターミナルを見学したが人も車もない不思議な世界でした。

韓国の建設のすさまじさをずっしり感じて18：35ANA便で帰国しました。

田中さんはじめ多くの韓国の友人のご協力に感謝するとともに今後の運動交流を約束し合いました。

韓国の旅に参加して

長良川市民学習会 西部 節子

2010年に名古屋で開かれた「COP10 国際会議」で今回の旅でお世話になった皆さんに会いました。私たちの「長良川河口堰」のブースで韓国から参加された、彼、彼女達の発表。スライドで日本の比ではない荒れ様にびっくり、中でも一人でダムに立ち41日間も「座り込み」を実行したパクさんの熱意。ぜひ会いたい。

発表が終わってから「ぜひ韓国に来て、今の現状を見てほしい。」この言葉に皆乗り気になり、今度はこちらから出かけよう。今の韓国の状況をしっかり観てこよう！が実現しました。参加される方は、それぞれその道のプロ。いい体験をさせてもらいました。

私の目的は自分勝手に、二つの目的の為。一つは、ダムの上で座り込みをしていた彼に合う事。一つは私事です。戦後日本に居た韓国、中国、それに日本の部落民のお兄さん等の最底辺で生活している彼等だからこそ、弱者だからこそ、私達（浮浪児）を平等に生きさせてくれた。ずーっと心の重荷だった「ありがとう」を言いたかった。中国は2000年に責任を果たした。今度の韓国旅行でもう一つの重荷をおろす事が出来、私の最良の年です。特に「ダム彼」と会う事が出来、二人並んだ「ホットなフォト」これは私の宝物です。

ぜひ彼を見て下さい、いい顔してるでしょ。「国どうし」が、にらみあっても「個人どうし」は永遠に仲間ですよ。

私は信じます。

◎カムサハムニダ ◎シェ シェ ◎ありがとう。





校歌に歌われた長良川 ⑭

岐阜市立岐阜清流中学校校歌

作詞／南育代 作曲／南こうせつ 編曲／矢島マキ

- 一、水清き長良川に 春の陽が降り注ぐ時
眠りから覚めた大地は 新生の朝迎える
萌え出づる岸辺の草 明日へと流れる川
旅立ちの期待と不安 胸に秘めて 歩き始める
若い我等と 我が学び舎に 幸せの光あれ
- 二、緑なす金華山に 夏の陽が照りつける時
岐阜城の白い天守は 先人の夢を語る
天下への熱き野望 よみがえる時代の風
行く道に迷える時は 過去を見つめ 未来へ向かう
若い我等と 我が学び舎に 情熱の光あれ
- 三、夕暮れの伊吹山に 初雪が舞い降りる時
秋は過ぎ冬が訪れ そして星座は巡る
今はすぐ過去になるよ いとおしい時の流れ
思い出を重ねながら 共に学び 共に歩む
若い我等と 我が学び舎に 永久の光あれ
永久の光あれ

長良川の旧古川と旧古々川地区に早田（そうでん）小学校と則武小学校があります。以前は校区割りが違っていました。今年四月から右記地区の中学校として清流の名を冠して岐阜清流中学校として、旧明郷中学校の跡地に新しくスタートしました。青代さんがこの地区で少女時代を過ごしたことが縁となり、校歌は南こうせつ夫妻が作りまし、爽やかな時と曲で生徒たちも短い時間でマスターしました。「清流中学らしい活動はありますか？」と訊ねたら「校舎横を流れる旧古川の早田川に全校生徒の手でホタルを戻すことです」と答えが返ってきました。（粕谷豊樹）

事務局より

5月に水中カメラマンの吉村朝之さんの突然の訃報が届きました。

市民学習会では、2009年の2月と4月、2度にわたり長年取材した「長良川の今」を映像で紹介しながら、長良川への想いを語られました(NEWS.No5をご覧ください)。河口のヘドロで視界がきかないほどの暗闇の映像は衝撃的でした。また、三重県の銚子川河口部で撮影した汽水域の貴重な映像も紹介されました。海からの潮と川の水が混じり合い、ゆらゆらゆれる流れを生き生きと遡上する魚たちの群れ。汽水域の大切さを語ってあまりあるものでした。河口堰によって引き起こされた環境の変化を少しでも改善するにはどうしたらいいのか？汽水域を取り戻すために、海水が自然に行き来できる状態の調査を、というのが愛知県が設置した委員会の提案です。一方塩水を一滴たりとも入れることはできない、というのが国の立場です。潮を入れるのが本当に「塩害」を引き起こすのでしょうか？国と県との合同会議が一日

も早く設置され、環境改善に向けて建設的な議論が尽くされるよう要望します。同封の愛知県知事宛のハガキキャンペーン、ご協力をよろしくお願いいたします。

今後の予定◆ご参加ください

9月8日(土)9日(日)「長良川DAY2012」郡上市
映像とお話 向井貴彦「長良川の魚たちは今」、ラフティング、飛び込み魚とり等……………お問合せは:090-1410-4210(堀)

9月9日(日)10時～12時「長良川いきものみつけ」
長良橋右岸下流で水辺観察

9月16日(日)10時～12時「なごや環境大学③」
リバーツアー 千鳥橋～長良橋ラフティング

9月29日(土)13時～15時「なごや環境大学④」
名古屋市女性会館
講座/長良川の再生に向けて:講師/粕谷志郎・山本茂雄

※9月9日16日29日のお問合せは:090-1284-1298(武藤)又は、長良川市民学習会のHPをご覧ください。

9月25日(火)15時～「導水路裁判」名古屋地裁
進行協議(裁判官交代のため)

※ニュースのバックナンバーは長良川市民学習会ホームページ <http://dousui.org/> でご覧いただけます。

発行：長良川市民学習会 <http://dousui.org/>

代表：粕谷志郎

連絡先：武藤 仁/090-1284-1298

〒500-8211 岐阜市日野東7-11-1

●私たちの運動はみなさんのカンパで成り立っています。賛同してくださる方はぜひカンパをお願いします。

郵便局口座番号：00840-3-158403

口座名称：長良川市民学習会